学校番号	３０３２Ｂ

令和８年度　農業科

教科	農業	科目	(学)くらしと動物イ	単位数	１単位	年次	２年次後期
使用教科書							
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、養鶏や養蜂といった家畜の飼育と畜産経営に必要な基本的な知識・技術の習得をめざします。また、家畜の役割や畜産物の利用について理解を深めます。
２・３年継続履修科目です。

２　学習の到達目標

（1）家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
（2）家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し，農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
（3）家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び，農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	家畜の飼育と畜産経営について体系的･系統的に理解しているとともに,関連する技術を身に付けている。	家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し，農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び，農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
後期	家畜の種類と特性	○家畜の種類と特性 ○経済動物と愛玩動物 ○動物の歯について ○肉用牛生産の現場について ○ウサギの生態について	a: 家畜の種類と特性に関する基礎的な知識を身に付け、その重要性を理解している。 b: 家畜の種類と特性について思考を深め、基礎的な知識をもとに合理的に判断する姿が見られる。 c: 家畜の種類と特性について興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	レポート 単元考査	発表態度	授業観察 実習記録
	養蜂の生育過程と役割	○ミツバチの疾病について ○ミツバチの生育過程 ○働きバチ・女王バチ・雄バチの一生と役割 ○花木の蜜源植物について	a: 働きバチの生態に関する基礎的な知識を身に付け、蜂群管理の重要性を理解している。 b:働きバチなどの生育過程と役割について思考を深め、基礎的な知識をもとに合理的に判断する姿が見られる。 c: ミツバチの生育過程と役割について興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。			
	養鶏の飼育管理	○鶏舎の衛生管理 ○鶏舎の管理(給餌・給水) ○廃鶏の解体	a: 鶏舎の衛生管理に関する基礎的な知識を身に付け、その技術を適切に活用している。 b: 鶏舎の衛生管理について思考を深め、基礎的な知識をもとに合理的に判断する姿が見られる。 c: 日常管理や廃鶏の解体について興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	実習記録 単元考査	授業観察	授業観察 実習記録
	養蜂の飼育管理	○蜂群管理(内検) ○副産物の利用(ミツロウ) ○採蜜・精製・瓶詰 ○ミツバチの防寒対策 ○蜜源植物の栽培(ナバナ)	a: 採蜜・精製・瓶詰に関する基礎的な知識を身に付け、その技術を適切に活用している。 b: 蜂群管理について思考を深め、基礎的な知識をもとに合理的に判断する姿が見られる。 c: 副産物の利用について興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度